

## 平成 23 年 7 月の熱中症による救急搬送の状況

総務省消防庁では、平成 23 年 7 月の熱中症による全国の救急搬送の状況（確定値）を取りまとめたので、その概要を公表します。

### 【資料】

[平成 23 年 7 月の熱中症による救急搬送状況](#)



(連絡先)  
消防庁救急企画室  
担当：長谷川 伊藤 渡邊(俊)  
電 話：03-5253-7529  
FAX：03-5253-7539

# 平成23年7月の熱中症による救急搬送状況（確定値）の概要

平成23年7月中の熱中症による救急搬送状況について調査を行ったところ、その概要は以下のとおりでした。

## 1 気象

平成23年7月は、上旬に北日本で南からの暖かい気流の影響で気温が平年を大きく上回りました。上旬後半から月半ばにかけては太平洋高気圧が日本付近で強まり、東日本を中心に所々で猛暑日となり、中旬の東日本の平均気温は7月中旬としては1961年以降最も高い値を更新しました。下旬は、上空の寒気や湿った気流の影響により、北海道を除いて雲が広がりやすく、所々でにわか雨や雷雨となる日がありました。月平均気温は、北日本から西日本にかけて高く、北・東日本では平年を1℃以上上回りました。（気象庁「7月の天候」より）

（参考）

平成22年7月は、中旬の終わり頃から太平洋高気圧が日本付近で強まり、東日本を中心に日最高気温35℃以上の猛暑日となるなど各地で厳しい暑さが続きました。

北日本の7月上旬、東日本の7月下旬の平均気温は1961年以降第1位の高温となったのははじめ、月を通じて平年を上回りました。

平成21年7月の気温は、梅雨前線が本州付近におおむね停滞し、北日本から西日本にかけて曇りや雨の日が多い状況で、月のはじめは西日本と沖縄・奄美で、下旬に東・西日本でそれぞれ寒気や曇雨天の影響により一時的に平年を下回っていました。（気象庁「7月の天候」より）

## 2 ポイント

### (1) 総数

平成23年7月の全国における熱中症による救急搬送人員は17,963人でした。これは、平成22年7月の熱中症による救急搬送人員17,750人の1.01倍、平成21年7月の熱中症による救急搬送人員5,294人の3.39倍となっています。（集計1、集計2、集計3参照）

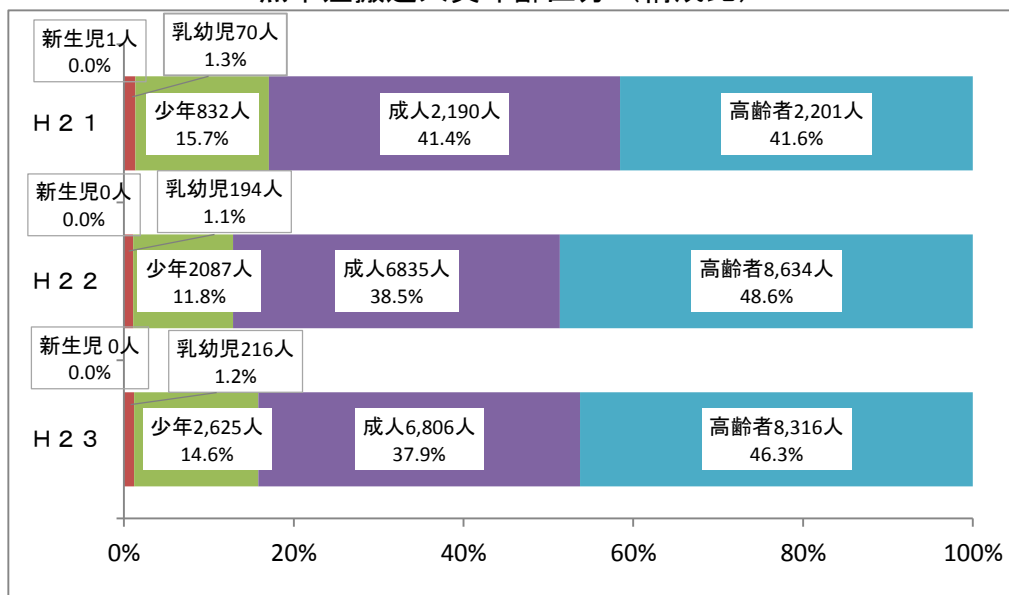
### (2) 内訳

- ① 熱中症による救急搬送人員の年齢区分をみると、高齢者（65歳以上）が8,316人（46.3%）と最も多く、次いで成人（18歳以上65歳未満）6,806人（37.9%）、少年（7歳以上18歳未満）2,625人（14.6%）、乳幼児（生後28日以上7歳未満）216人（1.2%）の順となっています。（集計1参照）

平成22年7月と比較すると、高齢者と成人の構成比がそれぞれ2.3ポイントと0.6ポイント減少する一方で、少年の構成比は2.8ポイント増加しています。

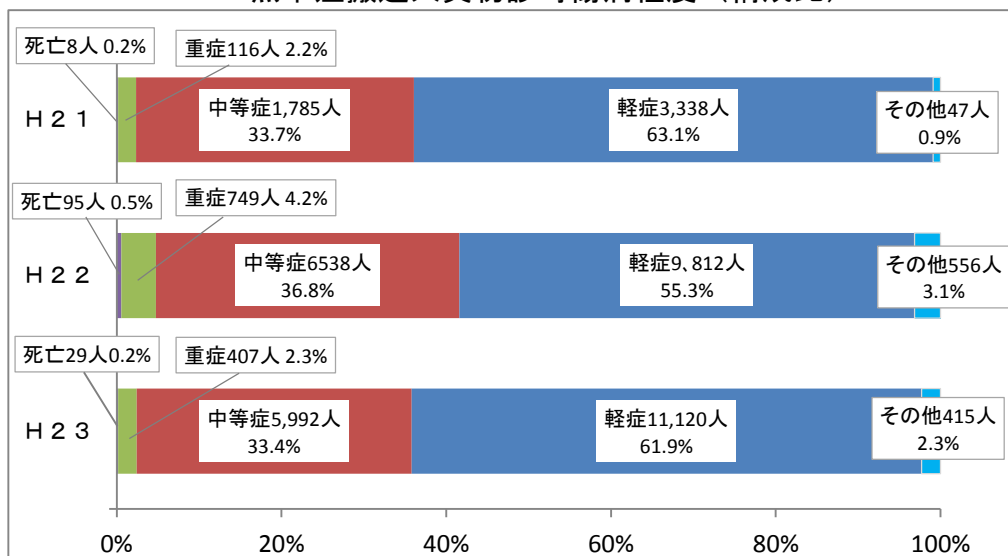
平成21年7月との比較では、少年と成人の構成比がそれぞれ1.1ポイントと3.5ポイント減少しており、高齢者の構成比は4.7ポイント増加しています。

熱中症搬送人員年齢区分（構成比）



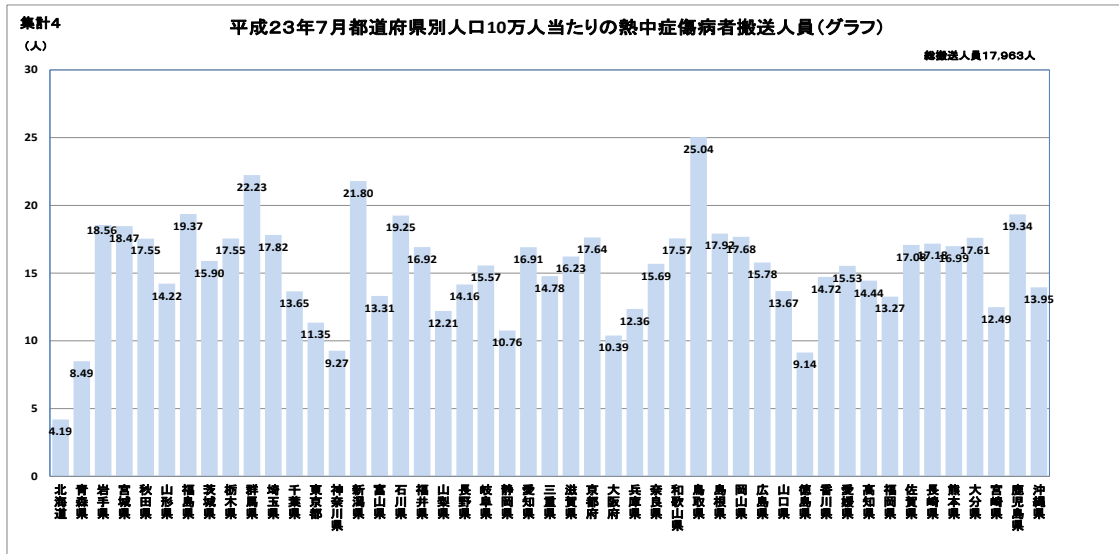
- ② 熱中症により搬送された医療機関での初診時における傷病程度をみると、軽症が最も多く 11,120 人（61.9%）、次いで中等症 5,992 人（33.4%）、重症 407 人（2.3%）、死亡 29 人（0.2%）の順となっています。（集計 1 参照）
- 平成 22 年 7 月と比較し、中等症以上の構成比が減少し、そのうち死亡は 0.3 ポイント（66 人）減少しています。一方、軽症の構成比は 6.6 ポイント増加しています。
- 平成 21 年 7 月との構成比の比較では、軽症では 1.2 ポイント減少していますが、ほぼ同様となっています。

熱中症搬送人員初診時傷病程度（構成比）

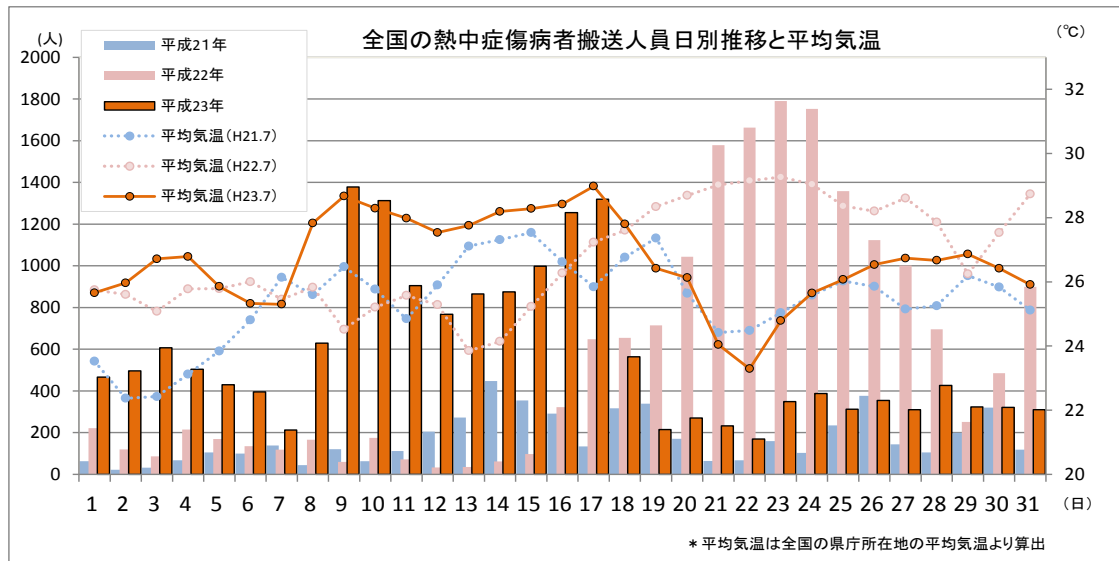


- ※ 軽 症：入院を必要としないもの  
 中 等 症：重症または軽症以外のもの  
 重 症：3 週間の入院加療を必要とするもの以上  
 死 亡：医師の初診時に死亡が確認されたもの

- ③ 都道府県別人口 10 万人当たりの熱中症搬送人員は、鳥取県が最も多く 25.04 人であり、次いで群馬県 22.23 人、新潟県 21.80 人の順となっています。（集計 4 参照）



- ④ 熱中症傷病者搬送人員と平均気温の関係では、平均気温が上昇すると熱中症傷病者の搬送者数も増加する傾向にあります。（集計 6 参照）



### 3 その他

- 熱中症を予防するには、暑さを避け、こまめに水分を補給し、急に暑くなる日には注意することなどが必要です。また、高齢者は温度に対する皮膚の感受性が低下し、暑さを自覚できにくくなるので、屋内においても熱中症になることがありますので注意が必要です。
- 消防庁では、国民へ熱中症に対する注意を呼びかけるとともに、下記のHPで熱中症に関する情報及び毎週、熱中症による救急搬送状況の速報値を提供しています。

消防庁熱中症情報

[http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/fieldList9\\_2.html](http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/fieldList9_2.html)